

時間を大切に作る・・・～6月10日は時の記念日～

6月10日は「時の記念日」。今年は制定されてちょうど100年です。1920年東京天文台と生活改善同盟会の提唱により、国民に「時間をきちんと守り、欧米並みに生活の改善・合理化を図ろう」と呼び掛け、時間の大切さを尊重する意識を広めるために設けられました。

では、なぜこの日になったかは右のとおりです。最高の技術を使って正確に時刻を計ることが、人々をまとめ国を統治する力につながっていたようです。その後、月や太陽など天体の動きによって決められていた時代を経て、現在ではセシウム133という原子が放射する電磁波の振動によって決められています。地球や月の動きは厳密には一定ではなく、より精度の高い基準が定められていったのです。

ここまで正確さが求められるのはなぜでしょうか。

一つには、時間が私たちの生活や社会の決まりの基準になっていることがあります。例えば1時間の授業、友だちや家族との約束、仕事を仕上げる期限などがあります。これがまちまちになってしまうと社会生活が上手くいかなくなってしまいます。もちろん時間は正確でも、それを守る人と守らない人が出てくると、多くの人に迷惑を掛けてしまうことになります。新幹線ののぞみ号が1分遅れて到着したとします。一つの列車には千人を超える乗客が乗っていますから、千人以上のスケジュールに影響することになりますよね。

もう一つ。それは私たち自身の生活に関わることです。

一日一字を記さば、一年にして三百六十字を得、
一夜一時を怠らば、百歳の間三万六千時を失う。

幕末の長州藩の思想家・教育者であった、吉田松陰の言葉です。現在の山口県萩市に「松下村塾」を開塾し、幕末の志士、久坂玄瑞や高杉晋作、明治に活躍した伊藤博文や山県有朋らを育てました。時間は誰でも平等に与えられています。それをどのように使うかによって、結果は大きく変わります。毎日たった一文字を覚えるほどのわずかの時間でも、1年間では365文字を覚えることになる。一方、いたずらに過ごしてしまうと、一生の間には膨大な時間を無駄にしてしまいかも知れません。志、夢、目標があるのであれば、『それぞれに与えられた時間を大切につかうこと』そして、『日々の小さな積み重ねが大きな力になる』と私たちを励ましているような気がします。時間は私たちを待ってはくれません。あなたは、今この時を大切に過ごしているでしょうか？

日本書紀には天智天皇が671年、近江京（現在の滋賀県）に「漏刻」（水時計）を設置し、時刻を計って鐘を打ち人々に正確な時を知らせたという記述があります。その日が現在のカレンダーでは6月10日であることから決まったようです。

また、これより前、660年に当時の皇太子中大兄皇子（後の天智天皇）が飛鳥京に漏刻を設置し時を知らせたことが記されています。一定の水が流れ落ち、溜まった水の量で時刻を計るという当時としては最高水準の技術で作られていたようです。



